

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報

2009.2.25

No.36

連絡先 042-555-1911



“いま日米同盟が問われている” 「横田基地の撤去を求める会」が学習会

講師は日本平和委員会常任理事の川田忠明氏



2月22日(日)、羽村市の産業福祉センターで、「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の学習会が開催され、約70名の方が参加しました。

講師の川田忠明氏は、2007年、エクアドルで開催された「外国軍事基地撤去国際大会」や、ベネズエラで開催された「2008年世界平和大会」にパネリストとして参加するなど、世界でも活躍されています。

学習会は、“いま日米同盟が問われている”ー世界の平和共同体と基地闘争にふれてーというテーマです。ポイントは、



- ①世界のダイナミズムの中で、脱軍事同盟、基地撤去の流れをみる。
- ②軍事でも、経済でも、際立つ日米軍事同盟の異常さをみる。
- ③新しい世界のあり方をつくる力は、世論と運動、国際連帯、世界政治。の、三つの柱です。

オバマ政権と私たちの運動については、「変化」をつくった平和の世論に注目し、平和運動の視点でとらえようと語りました。

脱軍事基地・基地撤去の流れについては、

ラテン・アメリカ…アメリカの「裏庭」といわれた反共軍事ブロックは崩壊し、アメリカ抜き
の平和共同体へ。エクアドルやボリビアは、憲法で外国軍事基地はおかないと定めた。

アジア…反共的同盟からの「変容」。TAC(東南アジア友好協力条約)は、「独立、主権」などの基本原則を掲げ、25カ国に。ASEAN(東南アジア諸国連合)は、核も基地もない平和共同体へ。

ヨーロッパ…世界最大の軍事機構 NATO(北大西洋条約機構)の地域で、「米ミサイル防衛反対」、「米ダルモリン基地拡張反対」など、米軍再編・基地闘争が広がっている。と紹介。

時代に逆行する日米同盟…在日米軍基地の異常さ、米依存の経済に諸悪の根源がある。

私たちの運動の意味…世界と日本の重要な転機に。横田基地は、米軍・自衛隊一体のセンターがあり、MDの中核であり、米軍再編の要のひとつ。世界的運動の焦点のひとつ。一人ひとりが憲法・平和的生存権の実践を！と結びました。世界の中の横田基地が見えてくるようでした。

夜空を焦がした横田基地大火災・火災報告書はどうなっている？

1月20日午後6時30分、横田基地で出火した火災は、21日の午後11時になってようやく鎮火しました。鎮火まで28時間かかりました。東京消防庁と第374空輸航空団との消防応援協定では、要請した側は2週間以内に応援側に、火災報告書を提出することになっていますが、協定は守られたのでしょうか。出火原因は何だったのでしょうか。分かり次第お知らせします。



(写真：あきる野9条の会・前田眞敬氏提供)

沖縄・高江『仮処分申し立て』に異議申し立て！

沖縄北部のヤンバルの森は、ヤンバルクイナやノグチゲラなど世界でもここにしかない貴重な動植物の宝庫です。高江はそんな自然の中にある、小さな集落です。

そして米軍のジャングル訓練センターの真横にあります。さらに高江の集落をかこむように米軍のヘリパッド（ヘリコプター着陸帯）を6つ作る工事が、始まっています。

いまでも米軍ヘリが低く長く飛んでいるのに、ヘリパッドができて、新型機オスプレイが飛んだら、「高江に人が住めなくなる！」と考えた高江の住民が、「自分の家で普通に暮らすため」に去年の7月から工事現場の入り口で、工事をやめてもらうために座り込みを始めました。

ところが沖縄防衛局は8歳の少女を含む住民15人を、座り込みは通行妨害だとして「通交妨害禁止仮処分命令申し立て」を行ったのです。（のちに少女の仮処分申請は取り下げられた。）いま全国で、仮処分申請の取り下げを求める署名が取り組まれ、高江のたたかいを大きく励ましています。そもそも住民側の妨害があったのでしょうか。テントや車両は通路を塞いでいないし、人も「抗議」しているだけ物理的な阻止ではないのです。

国の行為は正当でしょうか。ヘリパッド建設自体が人権侵害です。オスプレイその他危険な航空機利用の予定があり、騒音、墜落の危険に晒され、住民の人格権、環境権、平和的生存権を侵害しており、国の行為こそ不当です。

＊平和委員会は、那覇地方裁判所宛の要請書の署名を集めています。ご協力ください。

墜落多発のオスプレイ

通常のヘリコプターより速く、航続距離も長く、と開発された新型機 V-22 オスプレイは、何度も墜落事故を起こしています。

1991年、試作機が初飛行後、数分で墜落。搭乗員2名は脱出したため軽傷。1992年試作機が試験飛行中エンジンから出火して墜落、7名全員死亡。量産が認められた後の2000年、兵員輸送試験中に墜落して19名が死亡。同じ年、夜間飛行訓練中墜落4名死亡。など、危険な機体です。（右の図：米海兵隊ホームページのオスプレイ訓練予想図）



防衛省 米軍再編の来年度予算案 補正でグアム基地に346億円

2009年度予算案の米軍再編経費の補正が組み込まれました。グアムに米海兵隊の新基地を建設するための経費346億円が初めて計上され、米軍再編の本格的な推進を図るものになっています。

内訳は、工事費として▽グアム島北部のフィネガヤン地区の基盤整備129億円▽同島北部のアンダーセン空軍基地での海兵隊航空部隊の施設建設のための基盤整備28億円▽同島西部のアプラ港湾地区の基盤整備174億円。ほかに下士官用隊舎（フィネガヤン地区）や港湾運用部隊の司令部庁舎（アプラ地区）などの設計費16億円を盛り込んでいます。

アンダーセン基地での基盤整備は「実戦部隊用の作戦運用施設については、日本は分担することはない」としてきた政府の説明にも反するものです。

日本政府が調印した「グアム新基地建設協定」（条約）って何だ？！

政府は17日、来日したクリントン米国務長官と「グアム新基地建設協定」（条約）を調印しました。この協定は米国領グアムに米軍基地を建設するために、日本が巨額の費用を負担するという世界に例を見ないものです。協定は今後、国会で審議されます。黙っていたら大変です。